

2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年4月3日
研究・研修課題名	「認定視能訓練士」取得のための研修
研究・研修組織名(所属)	眼科学講座
研究・研修責任者名(所属)	小村哲郎
研究・研修実施者名(所属)	戸川裕基 矢田萌里 秦久乃

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	秦 久乃(視能訓練部) 矢田 萌里(視能訓練部)
学会名(会期・場所)、認定名等	日本視能矯正学会(2019/11/30~12/1、福岡国際会議場)
演題名・認証交付元等	視能訓練士協会
取得日・認定期間等	2019/11/30~12/1
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

①目的

視能訓練士協会では2006年より生涯教育制度が開始され、教育プログラムを終了して所定の条件を満たしたものを「認定視能訓練士」とすることが決定された。2013年より「認定視能訓練士」が誕生するようになった。今日の高度医療社会において、視能訓練士自身が自己研鑽・自己啓発に努め、多様化する社会的ニーズや医療を取り巻く環境の変化に対応し、社会に貢献できる専門職として学習し続けなければならない。視能訓練士協会は会員の意識を高めて、専門職として国民生活の質的向上に寄与できる知識や技術の向上を図り、個々の視能訓練士が輝きながら生き残っていく力をつけるための生涯教育制度を構築している。生涯教育制度で学び、国民の健康の向上や維持に貢献できる知識と技術を習得し続けている者に対して「認定視能訓練士」の称号を授与し安心できる医療を提供するものである。視能訓練士協会の教育プログラム受講と、学会発表・参加・研修会で得られる単位を取得することで「認定視能訓練士」が取得できる。(教育システムを別紙添付) 当院の視能訓練士が将来的に「認定視能訓練士」を取得することを目的とする。

②方法

公益社団法人 視能訓練士協会の定める生涯教育プログラムに組み込まれた以下のプログラムを履修し、所定の単位を取得することで認定視能訓練士の取得を目指す。当院のすべての視能訓練士が認定資格を取得するため、・新人教育プログラム・基礎教育プログラム・視能訓練士協会の定める学会・研修参加で単位を取得 2019年11月30日~12月1日 福岡国際会議場で開催される、第60回日本視能矯正学会・生涯教育セミナーに出席して単位を取得する。当院の視能訓練士が認定資格を取得するため、2名を派遣する。(申請では3名の派遣としていたが、1名病休中のため2名の派遣となった)

③成果

公益社団法人視能訓練士協会は会員の意識を高めて、国民の健康の向上や維持に貢献できる知識と技術を習得し続けている者に対して、安心できる医療を提供する「認定視能訓練士」の称号

を与えている。協会の主催する教育プログラム履修と学会参加・発表単位を得て「認定視能訓練士」が取得できる。

以下、1～3を修了し、一定の臨床経験を満たしたものが「認定視能訓練士」となる

1、視能訓練士協会の生涯教育制度登録

2、新人教育プログラム修了

講義日程・技術日程の履修と学会出席、発表等の単位取得

3、基礎教育プログラム修了

講義日程Ⅰ～Ⅲ履修と学会出席、発表等の単位取得

「認定視能訓練士」取得のため、講義日程、技術日程、学会出席、発表等の単位取得が必要である。

秦 久乃・矢田 萌里の2名は、上記の1は登録済、2を履修中であり、講義修了し技術日程1項目を修了している。技術日程1項目修了の場合には学会参加・発表で17単位必要となる。今回、日本視能矯正学会の参加にて6単位、生涯教育セミナーにて1単位取得した。以前より取得していた単位と合わせると、新人教育プログラム修了のためには残り学会出席、発表等の9単位取得が必要であり、今後取得していく予定である。（別紙資料添付）